後期高齢者医療制度

大阪の平均保険料年額10万1千円

「安かろう・悪かろう」の医療制度への危惧が

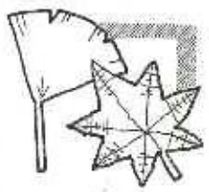
来年四月導入が予定されている「後期高齢者医療制度」について大阪社会保障推進協議会主催で学習会が開かれました。

大阪府後期高齢者医療広域連合議員の北山氏（日本共産党大阪市会議員）は、広域連合議会の議員定数はわずか二〇人で、近畿地方で最低人数。全四三市町村を拘束する広域連合の議会として体をなしていないことや同一議題での議員質疑が三回までの制限が設けられ、傍聴定員も三〇人など、議会運営のあり方としても異常なものであること、後期高齢者や幅広い府民の意見を直接に反映する仕組みが弱いことなど、問題点を指摘しました。

さらに十一月二二日開催予定の定例議会で提案される保険料の推計が年額十万一千四百四十九円であることを報告されました。

大阪社会保障推進協議会事務局長の寺内順子さんは、十月四日に社会保障制度審議会がまとめた診療報酬の骨子案について、介護保険の軽度者に導入された「介護予防」部分（包括報酬）と重なり合うと指摘しました。

また、試算された大阪府の保険料は、給付が大幅に押さえられるという前提のもとで、計算されたもので、後期高齢者医療制度は「やすかろう、悪かろう医療制度」になることも報告され最後に制度実施の中止・撤回もとめる行動提起が行われました。



中心市街地活性化について

厚生常任委員会が視察

厚生常任委員会で青森市の中心市街地活性化について視察に行きました。

市街地のドーナツ化がおきる中で、冬季の降雪量と除排雪費用の増加や移動困難による交通渋滞でエネルギーのロスが出ることから、「無秩序な市街地の拡大抑制」と「街なかの再生（中心市街地の活性化）」の二つの視点で、一九九八年には中心市街地再活性化基本計画を策定し、一九九九年には青森市都市計画マスタープランが作成されました。

マスタープラン内容は、①既存のストックを有効活用した効率的で効果的な都市整備、②中心市街地の再活性化③郊外部の農地・環境の保全を行うとし、★市街地再利用地域★農業や自然を残す地域★開発は認めない地域と、三区分されました。

準工業地域への大型集客施設立地規制のため、〇六年一〇月条例を制定。

歩いて買い物に行ける街に

中心市街地の再活性化基本計画では、歩いて買い物などに行けるウォーカブルタウンを目標とし、方針として①街のたのしみづくり②交流街づくり③街なか居住の増進を掲げ、取り組む中で歩行者通行量・居住人口の増加など一定の成果がありました。昨年には六年前と比較し、歩行者通行量は、平日三七%、休日二九%増となっています。

郊外に大型ショッピングセンターが出店されても三～五年で閉店されれば市民の買い物が困る等、市の担当者から説明がありました。

視察には田中議員が参加しました。

議員日誌

田中ひさ子

先日、市民会館で「筆子その愛・天使のピアノ」が上映され鑑賞してきました。

筆子は華族に生まれ、三ケ国の言葉を話し「鹿鳴館の華」でした。結婚後、知的障害児が生まれ、夫の死後、娘を東京都国立市にある日本初の知的障害者施設「滝乃川学園」に預け、後に「滝乃川学園」をつくった石井亮一氏と再婚、知的障害者と共に生涯を閉じました。

上映にあたって山田火砂子監督があいさつされ、筆子同様に、知的障害の娘がいること、「知的障害者は屈託なく人を幸せにする力があり、『羽根を忘れた天使』だ」と話され、私もその通りだと思います。筆子も山田監督も母親として強く、すばらしい人だと感じました。